

学校教育への協力を通しての地域における福祉の推進

伊達市は、昔から教育熱心な土地柄として知られているところで、学校教育のみならず、生涯学習の一環として、青少年の情操教育も、地域住民を対象とした公民館活動の中で盛んに行われている。当施設では、地域の社会福祉教育の一環として、中学生・高校生を対象とした、ボランティア体験、職業体験、施設見学、慰問等の受け入れを積極的に行っている。年々、受け入れ依頼や依頼を受ける生徒数が増加してきており、教育委員会や学校からの当施設に寄せる期待が高まっていると感じている。

社会福祉法人 **信達福祉会** 〒960-0776 福島県伊達市梁川町字東土橋65番地1
TEL : 024-577-6111 / FAX : 024-577-6115

◆ 法人の概要

法人設立年：昭和60年7月

経営施設、事業（数）：3施設

経営施設、事業（種別）：

特別養護老人ホーム…3箇所、ショートステイ…3箇所、デイサービス…4箇所、ケアハウス…1箇所、居宅介護支援事業所…2箇所、地域包括支援センター…1箇所

◆ 法人の理念・経営方針

社会福祉法人信達福祉会は、社会福祉事業及び介護保険事業の経営を通して、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ自立した生活を地域社会において営むことが出来るように支援する。

◆ 実施施設の概要

施設名：特別養護老人ホーム 梁川ホーム

施設種別：特別養護老人ホーム 梁川ホーム 利用定員…80名

活動開始年：平成11年8月

活動の頻度・時間：年2～3回、1日～3日間、1回あたり5時間～7時間

活動の対象者：地域の中学生、高校生

活動実施の背景、実施にいたった理由

伊達市は、昔から教育熱心な土地柄として知られているところで、学校教育のみならず、生涯学習の一環として、青少年の情操教育も、地域住民を対象とした公民館活動の中で盛んに行われている。

平成9年、この地に梁川ホームが誕生したことにより、それまで構想として持ちながらも具体的に実施出来なかった、社会福祉教育にもますます力が入れるようになってきた。特に多感な中学生や高校生が、高齢者と触れ合う中で少しでも思いやりの気持ちを持つことが出来るようになって欲しいという、学校や教育委員会、公民館活動の目的に協調した施設長の意向により、梁川ホームでは毎年ボランティア体験、職業体験、施設見学、慰問等の受け入れを積極的に行っている。

実施内容

学校や教育委員会が作成したボランティア活動や職業体験学習の要綱を基に、施設は施設内での生徒の活動計画を作成して、受け入れを行っている。

核家族化が進み、家に高齢者のいない家庭の中で育った子どもが増えていることから、まずは高齢者と触れ合う時間を多く取り、一緒にレクリエーションを行ったり、歌を歌ったり、職員が橋渡しをしながらコミュニケーションをとってもらう。

また、介助としては、職員の説明の後に利用者の車椅子を押してもらいながら、施設内や、天気の良い日には敷地内の公園の散歩をしたり、食事の時間に、配膳の手伝いをしてもらったり、出来るだけお年寄りと関わりをもちながら出来る作業を計画する。施設内の清掃作業の合間には、職員と利用者との関わりを間近で見学してもらい、高齢者とどんな風に接したら良いか、目と耳で学ぶ機会を提供している。

実施内容

年々、特に中学生の職業体験やボランティア体験の受け入れ施設として、受け入れ依頼元や依頼を受ける生徒数が増加してきており、教育委員会や学校からの当施設に寄せる期待が高まっていると感じている。

中学校のボランティア体験で施設に来て、それをきっかけに介護の仕事をしようと思い立ち、高校を卒業後に介護福祉専門学校に進学したという学生が、施設実習でやってきたこともあった。

そのような時には、自分たちが少しでも地域社会の教育活動に貢献出来たことが嬉しく、また誇らしくも思える。地域の方たちも、「今度お宅の施設にうちの孫がボランティアで行くんだ。世話になるよ。」などと親しく声をかけてくださる。地域の中で、高齢者だけでなく老若男女様々な住民の方たちに利用していただけることは、施設にとっても非常にありがたいことだと感じている。

今後の課題

受け入れ期間中は生徒の対応にかかりきりとなり、一日に多くの生徒を受け入れることには限度があり、業務への影響は少なくはない。

この点については、①一日の受け入れ人数を限定する、②受け入れの期間を年に何回かに分ける等の、より計画的な受け入れ態勢について、施設から学校側や教育委員会に提案していかなければならないと感じている。

しかし、年に数回の活動ではあるが、生徒の心の教育や、彼らに社会の役割と責任を創造する機会としての場を提供することが、地域社会における施設の重要な役割であるという考え方を基本に据えて、今後も積極的、より主体的に生徒の体験受け入れ事業に関わっていきたいと考えている。

